

防災一口メモ (最終回)

防災一口メモは、今回で最終回を迎えました。最終回のテーマは、自主防災組織についてです。

自主防災組織とは、地域の人たちが自分たちの町を守るため、日ごろから話し合いや訓練などを行い、防災活動を効果的に行うための組織であり、箱根町では、36の自主防災組織が結成されています。

いま、国をあげてこの自主防災組織の強化が叫ばれています。大地震などの災害が発生した場合、被害の拡大を防ぐため防災関係機関は総力をあげて防災活動に取り組みます。しかし、地震による災害は広範囲に及ぶのと、火災を始め、道路の寸断、建物の崩壊など多種多様にわたり、防災関係機関だけの活動では、被災地域に対して十分な対処ができないと考えられます。

いざというとき、各家庭がバラバラに行動しているのは、混乱はあっというまになります。地域の人たちがお互いに協力し、助け合ってこそ被害の軽減に結びつきます。事実、阪神淡路大震災の際、建物の倒壊や家具の下敷きになって救助を必要とした方の約7割が隣近所や家族によって助けられたと言われています。

これを機会に地域の皆さんが地域の防災訓練に積極的に参加し、組織の活性化をめざすとともにすぐに見

直せる災害対策として各家庭での『自助』を進めてください。自分自身だけでなく、家族などが被害に遭わないようすることが自助であり、災害による被害の軽減につながります。



平成16年 町総合防災訓練の様子

(参考)

自主防災に役立つ風水害や震度体験ができる施設が厚木市にあります。

名称 神奈川県総合防災センター
場所 厚木市下津古久280
電話 046 - 227 - 1700

とっておきの1枚 拝見!



箱根 安藤弘毅さんより

この写真は昭和15~16年ごろのものだと思います。場所は、現在の芦ノ湖畔の箱根登山営業所前の国道1号で、夏休み期間に朝、みんなでラジオ体操をしている風景です。

当時は箱根地区にも、こんなにたくさん子どもたちがいました。懐かしく感じる方も多いのではないのでしょうか。

大人から子どもまでおそろいのポーズで写るこの写真は、古きよい時代を思い起こさせるとともに亡き父を偲ぶ、とっておきの1枚です。

わが家のちびっ子



白川 智彬 くん (3歳6か月)

貴一・三枝さんの長男(仙石原)

♥お母さんからのひとこと

「大好きな智彬!!

いつも楽しませてくれてありがとう!」

町の人口と世帯

人口	14,724 (-21)
- 2月1日現在 -	男 6,950 女 7,774
()内は前月比	世帯 7,203 (-8)



R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

ごみ減量標語 捨てるより 生かして使おう 尊い資源